

# 地場産業製品のデザイン改善研究

浅川光臣・森本恵一郎・平田俊也・井上陽介・赤池理恵

Research on Improving Design for Products from the Local Industries

Mituomi ASAKAWA, Keiichiro MORIMOTO, Toshiya HIRATA,  
Yosuke INOUE and Rie AKAIKE

## 要 約

地場産業で保有する技術と県産材料を用い、あかりとワインをモチーフに新奇製品開発の可能性を探った。目的は、現市場にある製品に地場独自の技術をうまく取り込み、高級化した消費者向けに自分流の生活創造の小道具を提案することとした。明かりをモチーフにした製品として、欄間、ムード照明器、ワインをモチーフにした製品として、ワイングラス、ワインオープナー、替え栓の計5種類である。何れも完成度は高く商品化の普及を図っていききたい。

### 1. はじめに

生活の高級化が進み、生活必需品は充足されてきており、消費動向は物への欲求から精神面の充足を求める方向へ変換している。ここでは、日常生活の中での行動、行為を生活シーンとして捉えより豊かで、楽しく、快適に過ごすことができるような演出用の小道具を提案する。

今年度は「あかり」をテーマに2種類、「ワイン」をテーマに3種類の製品を地場にある技術と材料を用いて開発した。

### 2. あかり

あかりは家族の団欒の場のムードを醸成する上で効果的なモチーフの一つである。画一的な照明から脱し、明るさに変化を加えることによって快い雰囲気醸し出すことができる。実用性を廃し遊び心に重点を置いた製品と実用性を持ちながら楽しさを含んだ製品の2点を提案する。

#### 2-1 ムード照明器

本体は高級木材のローズウッド材を用い、光の出る部分は格子状にして赤めのうをはめ込んだ。

赤めのうは高級装身具としては不向きな材料を活用した。床上でも壁面でも用いることができる。デザイン上では高級感、愛玩性を表出することに配慮した。(写真1, 2)

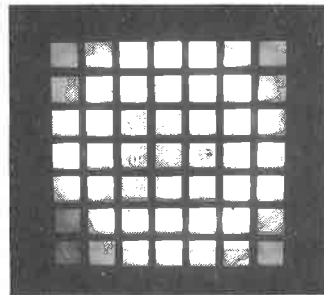


写真1 ムード照明器(壁掛け)



写真2 (床置)

#### 2-2 欄 間

和室の欄間は、通風や採光を目的としているが装飾性をもたせるため透かし彫りの板や格子などの組子を用いている。夜間の採光という観点から欄間の部分を照明部分として捉えてみた。簡素な構成の中にアクセントとして赤めのうを配した。住居の建設時に取付けるので商品化のためには更に検討を要する。(写真3)

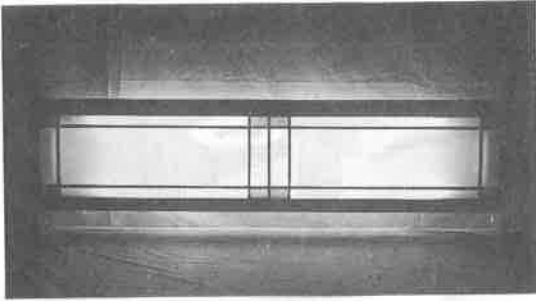


写真3 欄 間

### 3. ワイン

本県は地場産業としてワインの大産地であるにもかかわらず、消費する立場からの周辺の「ものづくり」が行われていない。従って「もの」もないのが現状である。そこで、地場産業の他業種の技術を用いてワインにまつわる小物3種類の開発を行った。

#### 3-1 ワイングラス

ワイングラスは様々な種類、品質の製品が市場に出回っている。しかし、これらの中でこれと思うデザインの多くは輸入品であったり、模倣品であったりする。又、別の観点ではワインを用いる食生活習慣の歴史が浅いために食器棚にうまく収まらないとかグラスの洗浄に気をつかうなどの話も聞く。今回の開発では、既成の戸棚への収納を配慮したものと遊び心を取り入れて、専用の台と組み合わせて用いるものと2種類を考えた。装飾として幾何学模様と昆虫の図柄をサンドブラスト工法で彫り込み、そこへ貴石粉と七宝粉を埋め込んだ。(写真4~7)



写真4 ワイングラス(蝶)



写真5 (幾何学模様)



写真6 (トンボ)



写真7 (抽象模様)

#### 3-2 ワインオープナー

市場にある製品はその殆どが用を足すだけの道具としか思えない。食卓に彩りを添える小道具にしたいと考え、把手となる木部に幾何学模様をグラスと同様の加工を施した。(写真8~10)



写真8  
ワインオープナー(A)



写真9 (B)



写真10 (C)

### 3-3 替え栓

ヨーロッパなどワイン文化の確立している国々では、洒落た替え栓があり常用している。虫の出る季節にボトルに虫が入り不愉快な思いを経験した方もおられよう。グラスやオープナーと同様の考え方、加工方法である。（写真11~13）



写真11 替え栓(A)



写真12 替え栓(B)



写真13 替え栓(C)



写真14, 15 セットした状態

### 4. おわりに

製品開発は人々の生活を観察することから始ま

る。その上で更に市場を観察する。ものが無ければ空隙を埋めることを考え、有れば改善することを考え市場獲得を図る。我々は、ゆとりを持ち始めた消費者の欲求を探りながら地場の技術と材料とで何が市場に提供できるか検討した。ここで提案したのは極く小さいことにしか過ぎないが、新製品となりうる可能性を秘めていると考えている。